

～郷土かるたで故郷発見～

此のあたり近に、仮に居を極めて（中略）ある夜雪に訪れて、君、火をたけ、よきもの見せん、雪まるげ、はせよ」と、しるしている。曾良は芭蕉に同行、その時曾良の「松島や鶴に身をかれ時鳥」の句はあまりにも有名であり、芭蕉も感歎して句ができなかつたといわれる。曾良は元禄十五年（一七〇二）の「更級紀行」にも同行して故郷へ立ち寄り、「多りわりて古き栖の月見哉」の句を残している。宝永六年（一七〇九）「春に我、こじきやめても筑紫かな」と辞世を残して、九州におもむき翌七年吉岐の勝本で六十四歳で没した。戒名は「賢翁宗居居士」で墓は現在上諏訪の正願寺に残っている。



「奥の細道」の松尾芭蕉に同行したのは、諏訪の人河合曾良であった。曾良は上諏訪上町銭屋の生まれで、江戸に出て吉川惟足の門にはいった。深川に住み、芭蕉門下の十哲に数えられるようになったときは、宗吾といった。芭蕉は「俳諧雪丸げ」に「曾良なにがし、

そ 曾良も行く奥の細道六百里

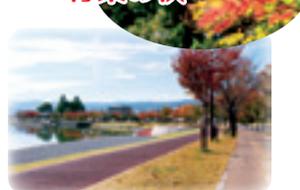
尺を使用するのが立川流であった。和四郎富棟は高島城下角間町の十王堂を初めとして、秋宮御門屋・温泉寺輪蔵などを完成して、善光寺大勧進・静岡浅間神社などを建て、その彫刻の巧みさは日光の外に比べるものがないといわれた。初代富棟の子富昌も傑作を残している。とくに下社秋宮の神楽殿・諏訪上社の拝弊殿・京都御所などは有名であり、三代富重も素晴らしい作品を残して、岡谷の広円寺などがある。立川流の宮彫は、一見素朴だが精錬された技法で建築物に使われることによって誠に雅やかな調和をたもっている。



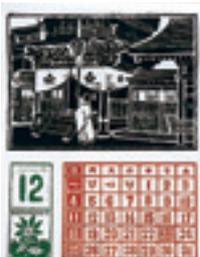
つ 樋音も高く立川宮大工

全国各地に存在する郷土かるた。多くは絶版となり現在では入手が困難です。ふるさとの財産「諏訪いろはかるた（信濃文化研究会作成）」に詠われたかるたを紹介します。

下諏訪町で 行楽の秋



あれれ！
もしかして万治さん、
おでき！
(きつと虫さんの巣ですね)



12月の暦
煤破い神事
山崎 義雄 作

～町図書館から～ 今月のおすすめ本

心のクスリ 読売新聞医療情報部/編 文芸春秋
読売新聞「こころ」のページで現在も連載中のインタビュー記事を収めた一冊です。「老いて得た自由と開放感」「延命よりも平穏な死を」「卵子提供でも出産する決意を」「がんと向き合う」…など14のテーマで各界で活躍中の方々によって語られています。「老い」「死」「生」「孤独」など誰にでもある心の不安や悩みにそとつづける「クスリ」のような本です。「読めば元気になる人生の達人たちによる言葉の処箋」のような本です。あなたも一度手にとってはいかがですか。（平出 みちよ）

よるの えんてい 佐々木 洋/文 講談社
みんなが楽しく1日を過ごしたあとの夜の幼稚園。しんと静まり返っています。誰もいない…？そうでしょうか？いいえ、じっと待ってよく見ていてください。いろいろな生き物がやってきますよ。蛾・コウモリ・ヤモリ・タヌキなどなど…。ちょっとドキドキ、かなりワクワク。実際にはなかなか見ることはできないでしょうから、ぜひこの絵本で夜の園庭を冒険してみませんか。きっと素敵なドラマが繰り広げられています。（宮坂 昭子）

「諏訪広域消防 大規模救急救助訓練」実施

多くの命を救うために

下諏訪町総務課 ☎27-1111 内線259 FAX28-1070
E-mail jyoho@town.shimosuwa.lg.jp
下諏訪町教育委員会 ☎27-1111内線718 FAX28-0131
E-mail syougai@town.shimosuwa.lg.jp
下諏訪町社会福祉協議会 ☎27-7396 FAX27-0890
ご意見・お写真などをお寄せください